

# 平成28年度学校評議員会報告

第1回学校評議員会 【平成28年6月2日（木）実施】

## 1 実施概要（協議研究事項を含む）

- (1) 本委員会の目的等について
- (2) 本年度の学校目標
- (3) 本校の現状（各部）
  - ア 教務  
学校の現状、パンフレット、ホームページのリニューアルについて  
昨年度から始まった出版物「南農NOW」の定期的な発行について  
年2回の中学校訪問、7月のオープンキャンパス、10月下旬の体験入学について
  - イ 進路指導  
本校のキャリア教育について  
家庭学習の定着  
基礎学力の充実を図るための実力テストについて  
各学年のキャリアウィークの取り組み  
塾の有効活用について  
昨年度の卒業生の進路状況と本年度の進路希望状況について
  - ウ 生活指導  
生徒の生活状況について  
不安定な様子を抱える生徒の支援体制について
  - エ 生徒会  
7月10日の南農祭に向けて
  - オ 農場より  
各学年の農業学習の様子について  
資格取得について（昨年度アグリマイスター制度全国トップ）
- (4) 質疑・意見交換
  - ア 高等学校第2次再編に対する対応について
  - イ 農業高校の魅力について
  - ウ 建設業への就職について
  - エ 生物工学科の進路について
  - オ 農業クラブ校内発表会について

## 2 今回の実施に当たって工夫したこと

- (1) 初回の会議で、本校の学習活動を知ってもらうため農業クラブ主催校内発表会への案内をしたところ1名に参観いただけた。
- (2) 早めに通知をしたことで、平日開催にもかかわらず全員に出席していただけた。

### 3 今回話題になった事項で特徴的なものとその概要

#### (1) 高等学校第2次再編に対する対応について

この地区において単独農業高校は本校だけであるので、是非これを継続していただきたい。現在3学科あるが、学校再編に対応するような新しい分野に切り込める構想があるか。

→ 学校としては、魅力を発信しながら、希望する中学生を増やしていくことが大切である。昨年度、文部科学省の指定事業であるSPHに応募したが、採用にならなかった。今年度も計画を練り直して挑戦したい。

#### (2) 農業高校の魅力について

昨年度、文化祭に参加して生徒の取り組みに大変感心した。販売活動などを通じて生徒がどう感じているのか。学校開放講座は市の広報以外にもPRする場があるとよい。

→ 校外での活動を通じて、地域の方々に支えられている実感を持っている。やりがいや達成感を感じて取り組んでいる。昨年度は安曇野市の協力のもと東京板橋区の販売活動にも参加した。学校開放講座は学校ホームページなどにも掲載している。

#### (3) 建設業への就職について

毎年、建設業への研修会や現場見学会を開催しているが、生徒の意欲や取り組みの面はどうか。学校での安全教育はどのような計画があるのか。

→ 環境クリエイト科は就職希望者が多く、こういった取り組みは興味関心度合いを高めている。交通安全教室などではスタントマンが参加し、視覚効果がある。

この地区での建設業からの高校生の受入について、あまり進まないでいないのが残念と感じている。

→ 震災が続いて社会基盤を整備していかなければならない認識を持つようになり、非常に重要な仕事と考えている。保護者の理解も進んでおり、地元での就職が少なくとも周辺の市町村への就職ができている。

#### (4) 生物工学科について

生物工学科は後期試験で定員割れとなったが、その理由はどのように考えているか。

→ 生物工学科は専門性を生かした就職が難しいということもあり、進学指導をしてきた。近年では就職を希望する生徒が増えてきている。経済状況が大きく反映しているのではないかと考えている。中学校訪問において、学科の特徴をよく説明していることも要因ではないか。

#### (5) 農業クラブ校内発表会について

本日の農業クラブ意見発表会を踏まえて、生徒が南農に対して自信や意気込みを感じた。今日の発表生徒の選出方法はどうか。

→ 生徒全員が意見文を書いて提出している。上級生はコースから代表を選出し、クラス内選考会を経て代表者となる。1年生は各クラスでクラス内選考会を行っている。

### 4 成果と課題（学校評議員会以外の活用状況を含む）

#### (1) 成果

- ・日頃の学習活動の様子や成果を知っていただける機会となり、生徒・職員の励みになる。
- ・地域の意見や要望を聞く場となり、地域と学校とが意見交換できる。
- ・学校の課題のなかで、地域の力を借りて速やかに対応できるものがある。
- ・別の視点で本校の課題を発見できる。

#### (2) 課題

- ・発見できた課題に対する具体的な解決の実践
- ・共有できた課題に対する協力体制の構築